

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4699300010
法人名	有限会社 ソフィア・インターナショナル
事業所名	グループホーム みさき
訪問調査日	平成 22 年 2 月 2 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 12 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4699300010
法人名	有限会社 ソフィア・インターナショナル
事業所名	グループホーム みさき
所在地	鹿児島県大島郡伊仙町犬田布ケマシ475番地1 (電話) 0997-81-9060

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成22年2月2日
評価確定日	平成22年3月12日

## 【情報提供票より】(平成21年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 29 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	15 人
非常勤	3 人
常勤換算	16.4 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	6,000円 (水道光熱費)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 50,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	11 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	65 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊仙クリニック ・ 伊仙歯科診療所
---------	-------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

徳之島伊仙町の犬田布岬近くにある当ホームは、周りを畑に囲まれホームから東シナ海に沈む夕日の絶景を眺められる場所にある。L字型に建てられた2つのユニットは、対面式キッチンで、ホール、廊下も広々とし木のぬくもりを感じさせ、明るく掃除の行き届いた清潔感のある建物である。職員は「なじみの人たちとこの徳之島で暮す」ことをケアの中心におき、利用者が笑顔ある自立した生活が送れるように支援している。利用者の退所もなく、定着した職員のケアが心の安定につながっていることが、利用者の穏やかな表情に表れている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の改善課題は特になかった。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の自己評価表を回覧し、気づいたことや取り組み内容に変化があったことなどの意見を職員から書いてもらった後、管理者と計画作成担当者でまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に1回、家族代表、地域代表、役場担当者、包括職員が参加し開催している。事業所の状況報告後に参加者の意見交換が行われている。役場から新型インフルエンザ情報を収集し、感染予防の対策をしている他、地域代表から、ホームの庭に植えてある植物の棘が危険であることを受けて取り除くなど、利用者が安心、安全に生活できる為のアドバイスを参加者から頂き運営に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関にアンケートを置いたり、運営推進会議への参加、家族が参加するクリスマス会の後に意見を聞く場を設けるなど、家族が苦情や意見を表せる機会を設けている他、面会時に意見を聞けるように、一緒にお茶を飲むなど職員は配慮している。家族から出された意見などは、連絡ノートを活用し職員で話し合い運営に反映できるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームのアピールとして業務用浮きで作ったカエルの置物を、敷地の塀にいくつも並べている為、地域の方にも存在が定着してきている。近隣の方から野菜や花の苗をもらったり、毎月ある地域清掃日にはホームの周囲の草を刈ってくれるなど日頃から交流している。また、小、中学校、保育園からのボランティアも受け入れている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れたこの徳之島の環境の下で、安全、安心、ぬくもり、やすらぎのある生活を支援します。一人一人の個性を尊重し、笑顔のある自立した生活が送れるように支援します。」という地域密着型サービスの理念に作り変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールや事務所に掲げ、毎朝の職員会議で法人理念と共に唱和している。職員は、地域行事に参加することを心がけている他、利用者に安心感を与えるために島の言葉で話しかけるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月ある地域清掃に利用者も参加している他、地域の敬老会、地域マラソン大会の応援、町文化祭に、毛筆・折り紙・貼り絵などの利用者の作品を出品している。また、ホームに訪ねてきてくれる小学生や保育園児と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価結果については報告されている。自己評価は昨年の自己評価を回覧し、職員より変化のあった項目の意見を書いてもらい管理者がまとめている。回覧した職員は、確認の日付とサインをし、ケアの振り返りの良い機会としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、新型インフルエンザ情報を収集し感染予防や発症に伴う対策の意見、植物に棘があるので取り除いた方が安全なのではという地域代表からの意見など、利用者がより良く生活するための意見や提案をサービス向上に活かしている。	○	会議は定期的に行われているが、地域代表の参加が少ないので、もう少し外部からの参加者を増やし、多くの意見を頂けるように取り組みの工夫をしていかれる事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課に出かけて行ったり、電話等で利用希望者の相談などの情報交換を行っている。伊仙町地区包括支援センター運営協議会が発足し、他の介護保険施設のメンバーと共にさまざまな案件を検討する場に管理者が委員として参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	便りは年4回、活動の様子、行事予定、職員異動の報告などを載せ発行し、発行以外の月は、担当職員が個別に排泄、入浴、睡眠、食事、歩行などの健康状態を詳しく書き入れ、本人の写真を載せて送付している。遠方の家族には特に喜ばれている。金銭出納帳は、コピーを送付し確認印を押して返却してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の後に家族から意見を聞く場を設けたり、匿名のアンケート、運営推進会議への参加など、家族が意見を表せる機会を作っているが、面会時に一緒にお茶を飲みながら話を伺うようにしている。出された意見や要望は、職員間で話し合いサービスに活かせるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく、馴染みの職員による支援がされている。行事やボランティアが来所した時には合同で行っているが、ユニット間で協力して支援していくために、職員を交代させることもある。管理者は、職員が安心して働けるように勤務表の作成には心を配っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が行う研修会には全員が参加するようにしている。外部研修は希望を優先し、職員にも伝達し共有している。職員の資格取得に向けての支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島地区GH連絡協議会に加入し研修会でのホーム見学や交流会に参加している他、徳之島の中で行う事例検討会などにも職員が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に必ず見学に来てもらい、本人が納得してから入居するようにしている。入居後は利用者に応じて家族の面会を多くしてもらおうなど協力を得ると共に、職員ができるだけ寄り添い、他の利用者との間を取り持つようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から時代を生き抜いてきた知恵を知り、言葉の重みを感じている。利用者から人の道やしきたり、島料理などを教えてもらうと共に、昔趣味で弾いていた三味線を弾いてもらったり、「ななこ織り」という織物を織っていた方に雑巾を縫ってもらったりなど、力を発揮してもらいながら支え合う関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを伝えられる利用者は少なく、職員が会話の中で聞き出す工夫をし、できるだけ近くで寄り添い気づいたことは日誌や申し送りノートに記録し共有している。また、家族が面会に来た時は職員もお茶と一緒に飲みながら利用者の情報を集めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員の気づきと、家族から電話や面会時に聞いた意向、往診時に主治医からのアドバイスがあればそれも加えた、利用者本位のものとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1回、利用者担当職員から直接聞いたり日誌や申し送りノートを参考にして行い、特に変化のない利用者については、年1回か半年に1回の介護保険の切り替え時に見直している。緊急の場合には、関係者と話し合い新たな介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人と連携し毎月2回の定期往診の支援をしている。定期受診は基本的には家族にお願いしているが、都合が付かない場合など職員が付き添っている他、自宅の様子を見に行きたい、お墓参りに行きたいなどの要望に応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を継続するかどうか確認しているが、家族の希望や了解のあった場合は、協力病院に変更している。病院受診では、適切な医療が受けられるように情報提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合の対応については、家族、主治医を交えて話し合っ対応して行くことを説明している。事業所での医療行為ができないため、ぎりぎりまで支援していくことは職員も周知している。	○	事業所として重度化に伴う対応の指針を明確化し、家族に同意を得られることを希望します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについて管理者は、家庭で子供にする対応とホームでの声かけや言葉遣いについての対応は区別することを日頃から話している。職員は、島言葉でわかるように耳元で話すなど、利用者に合わせた対応をしている。記録物も事務所で保管するなど、適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者との会話や様子からと介護計画を意識して、毎日散歩する人、編み物が好きな人には、毛糸がなくならないように揃える、美容室への送迎の他、朝、ゆっくり起きられる人、栄養剤を飲む人には無くなると家族に連絡するなど、利用者が続けている事や習慣にしていることに沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者聞きながら立てている。利用者はテーブルの上で島内で採れる野草や野菜の下ごしらえ、食器洗いなど力量に応じて手伝っている。食事中はテレビを消して、職員と一緒に食事をしながら声かけし、利用者が食事に意識をむけ完食できるように気を配っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴は、各ユニットで交互の入浴日としている。午前中の中入浴で特に順番は決めていない。拒否する方には、健康状態を確認し落ち着いた状態を見ながら入浴できるようにしている。夏場も湯舟に入ることを希望される方が多い。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所での年間行事が季節に合わせて計画されているため、利用者の生活にメリハリが付き季節感を味わえるようになっている。日々の生活では、カーテンの開閉や日めくり、洗濯物たたみなどしてもらい、レクリエーションでは歌や風船バレーなどで盛り上がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の敷地が広く、畑もユニット毎に作っているため、水やり、草取り、収穫などを一緒にしたり散歩、ドライブなど戸外出る機会を持つようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害については理解しており、玄関や窓には鍵をかけていない。外出傾向にある方には、離れて見守りしたり、一緒に付いていくなど状態に合わせて対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練のうち、1回は消防署の指導の下に行い、もう1回は昼間想定自主訓練を行っている。スプリンクラーも準備中で3月には使用できるようになる。水の貯水タンクもあり、非常食は備蓄されている。	○	今までに夜間想定訓練が数回しかないため、職員が自信を持って対応できるように、あらゆる災害を想定した自主訓練を行うことを希望すると共に、地域の協力を得られるようにはもっと働きかけを行うことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については把握されている。水分は意識付けを行い、飲む量が減ってきていると確認された場合には個別にチェックし、お水、ポカリ、牛乳、コーヒー、ゼリーなど本人の好むもので摂取が増えるように対応している。栄養のバランスは、母体法人の栄養指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下がゆったりとしていて、窓を開けると風通しがよく換気にも気を配っている。西日対策は塩害があるためエコカーテンが難しく、よしずで対応している。浴室は使いやすいように2面から入れる設計にし、トイレの手すりの位置、玄関、非常口のスロープなど安全に配慮している。行事ごとの壁かざりを作り季節感を伝えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベットは備え付けだが、布団や籐の整理ダンスなどの使い慣れたもの持ち込み、昔を思い出す品物や写真、仏壇など大切にしているものを置いて、落ち着けるように配慮している。		